

かなめ流通^{グループ}G ホットライン

業界を取り巻く環境は年々厳しさを増すばかりですが、あなたのお店はいかがでしょうか。当たり前のことですが、クリーニング店さんに元気になっていただかないと、我々機材商も元氣になれません。そこで、今回の「ホットライン」では新たな試みとして、(有)エルコーポレーション(大阪市西成区)の瀧藤圭一社長をお招きし、今クリーニング店が取り組むべきことをテーマにお話をうかがいました。今も現役で外交営業を続けつつ、クリーニング業に特化した戦略会計に、ユニット経営、外交営業、クレーム対応など、業界随一の守備範囲を持つコンサルタントとしても活躍する瀧藤氏は、業界の現状や今後をどう考えているのか、シリーズで紹介します。今回はその①です。

大阪にある弊社セミナールームで毎月、勉強会を開いているのですが、そこで何を話しているかというと、売り上げも大事だけど、売り上げよりも利益、利益よりも手元に残す現金をいかに増やしていくか、について。そこに出てくる数字は、全てレジから吸収したデータであり、非常に具体的なものです。それから私からの提案に対して、メンバーの方が実験的にやっていただくこともあり、そのデータはメンバー間で共有しています。

経営はもちろん、接客からクレーム対応まで含めて、ご相談・アドバイスしている顧問先も数社あり、全て利益がアップしています。

具体的にどうするかというと、毎月、人時生産点数(にんじせいさんてんすう)を出していただいています。ただし、皆さんの考えているものとは、ちょっと違うと思います。

私が考える人時生産点数とは、1点単価が非常に大事になってきます。例えばAという会社は25点、Bという会社は15点…実はこれ、比べられるものではないと、私は思っています。

というのは、1点単価が違いますから、当然、品質が違ってきます。「どこまで手間をかけるか」というのが、クリーニング店が料金を決めるベースになる部分だと思っています。1点単価が違う店を、人時生産点数だけで比べるというのはナンセンスだと私は思っています。大事なのは1点単価と、それにかかる人件費の割合ですね。一般的に20%が限度と言われていますが、TKC(我が国最大級の職業会計人集団)で調べますと、黒字の会社の人件費率は17~18%以内になっています。

ですから、1点単価を計算して、そこから最大で20%以内に人件費を抑える。この場合の人件費とは、給料+社会保険料、もちろん交通費も含めて、その人を雇用するに当たってどれくらいの費用がかかるのか、というのを計算した上で出しています。

顧問先では、まず現在の人時生産点数を出してもらい、目標となる数値と比較検討します。どれくらい目標とする点数から離れているのか、また、黒字企業の人件費率と同じ17%以内に収まっているのかを計算して話を進めます。というのは、クリーニング店の中で一番大きな費用を占めるのが人件費ですので、そこをどれだけ抑え込めるかというのが、利益の源泉になると思っているからです。

ですから、極力17%以内に収めていただく努力をしていただいて、達成できていないようなら、「今後、こういった形で改善しますか?」という話を具体的に投げかけています。その際、私からご提案しているのが【5秒短縮】です。これは、1点処理するのにかかる時間を今よりも5秒短くするにはどうしたらいいのか考えていただくということです。元々は、当社の処理の責任者であった私の家内による提案で、【5秒短縮】というのが、一番とっかかりやすいだろうということから始めた施策です。

家内は、「実際には10秒くらい短縮できる」と言っております。無駄話をやめるというのはもちろんですが、仕上げ直しを無くすこと



で短くすることができます。

さて、点数の数え方ですが、ワイシャツの場合は機械に付いているカウンターで、1時間当たりの仕上げ点数は把握できます。しかし、カウンターの数字がそのまま出荷点数かと言われれば、そうではないでしょう。仕上げにきいたため手直しをしなければならないワイシャツもあれば、料金が低いところでは、自社の品質に合わせるべく手直しをしているでしょう。私はよく、ネット(正味の)とグロス(合計の、全体の)という話をするのですが、手直しをして実際に包装機を通ってくるのが、本当の仕上げ点数なのです。

ですから、手直しが少なくなれば、処理時間は短縮できると考えられます。セットの仕方によって、手直しはかなり軽減できますから、その場合は5秒、いえ10秒でも短縮できることになるのです。

例えば、年商7,200万円、年間の処理点数が150,000点、1点単価480円というクリーニング店の場合、【5秒短縮】するとどうなるかを計算します。

時給が1,000円とすれば、1時間は3,600秒ですから1,000円÷3,600秒×5秒という単純計算で、1点あたり1円38銭削減できます。

1点1円38銭の削減で150,000点の処理ですから、207,000円の人件費の削減が可能になります。207,000円というと少ないと感じるかもしれませんが、営業利益率が5%だと仮定すると、売り上げに換算し直すと414万円に相当します。この他、時短効果に伴って光熱費も少なくなります。

たった【5秒短縮】することで、少なく見積もっても414万の売上に匹敵する利益が捻出できます。スタッフの方も「5秒くらいだったらなんとかなるのでは…」と、意外に抵抗感は少ないようです。家内は、当初は3秒でもいいと言っています。とにかく、1点に対してそれだけ少なくするというのを意識づける。パートさんは給料が減りますけれど、それで会社が利益を出せば、その分から多く分配することができるので、働いている皆さんにも還元されるでしょう。(つづく)



vol. 36

1点につき【5秒短縮】すると414万円の売上高に匹敵?
数字はウソをつかない、どんぶり勘定からの脱却を①

(有)エルコーポレーション・瀧藤圭一氏

◀【5秒短縮】でポイントなるのがセットの仕方(写真はイメージ)

瀧藤 圭一(たきふじ けいいち)氏プロフィール

有限会社エルコーポレーション代表取締役

クリーニングの営業に興味を覚え、外交専門のクリーニング店へ入る。1985年に独立。1990年、大阪市にユニット店「クリーニング エル」を開店。現在は、長年の実経験に基づくコンサルタント&サポートに軸足を移すも、現場感覚が大切と、今も外交営業を続け、大阪市内を走り回る。その一方で、「経営は会計にあり」とのポリシーのもと、クリーニング業に即した会計の講座を主催。来年は「戦略会計・実践塾2020」として年間6回(全て日曜日の14時~17時)、大阪市西成区の自社セミナールームにて実施する。6回分の参加費用は39,600円(税込み)。詳細は、同社(TEL06-6651-6070)まで。